

新年度にあたってのご挨拶

川上憲人

東京大学大学院医学系研究科精神保健学・精神看護学分野教授
東京大学精神衛生・看護学教室同窓会長

美しい新緑の候となりました。同窓会の皆様におかれましては、お元気でお過ごしでしょうか。私は4月から公共健康医学専攻長となり、例年にない多忙な新年度を迎えています。本年も、4つのイノベーション（教室HPをご参照ください）を推進し、高い目標に向け一層努力したいと思います。

2012年には教室の研究活動に大きな成果がありました。合計35編（英文28編、和文7編、in pressを含む）の原著論文が公表され、昨年の20編から大きく躍進しました。昨年12月には、世界精神保健調査のデータが利用された世界の疾病負担（Global Burden of Disease, GBD）2010年版に関するLancet誌論文3編に共著者として名を連ねることができました。10-11月には公開講座「職場のメンタルヘルス専門家養成コース」（TOMH）を開催し、12月には「健康いきいき職場づくりフォーラム」を（公財）日本生産性本部と共同で設立しました。また陸前高田市消防団員の支援など災害精神保健にも関わりました。

今年は国際精神保健にも着手すべく、クアラルンプール（マレーシア）で4月29日から5月1日まで国連大学、国連経済社会局、東京大学による「心の健康、障害および開発に関する専門家会議」を開催しました。



人の異動ですが、この3月には、今村幸太郎くん、梅田麻希さん、津野香奈美さん、ヨン・キム・フォン・ロザリンさんが大学院博士課程を修了し保健学博士を取得されました。梅田さんは、当教室の特任助教になっていただき、教室活動を支えていただくことになりました。今村くんには、特任研究員となってもらい研究を進めてもらう予定です。津野さんは、和歌山県立医科大学医学部衛生学教室に助教として就職し、医学生の教育に携わっています。博士課程単位取得済み退学は島田恭子さんと松長麻美さんの二人です。松長さんには精神看護学分野の非常勤講師となっていただきました。島田さんとロザリンさんは精神保健学分野の客員研究員として共同研究を進めていきます。修士課程では、後藤恭平くん、山岸みずほさんが健康科学・看護学専攻修士課程を修了し、それぞれ東京武蔵野病院、東京都文京区に就職しました。また下田陽樹くん、時田征人くん、国際地域保健で修士を学ばれた宮本かりんさんが健康科学・看護学専攻博士課程（後期）精神保健学分野に進学しました。一方、公共健康医学専攻（専門職修士課程）精神保健学分野に金原明子さん、佐藤融司くんを、健康科学・看護学専攻（修士課程）精神看護学分野に栗林一人くん、菅真理子さんが入学されました。現在教室は、教員5人、特任研究員3人、秘書・学術支援チーム3人、博士課程院生7人（休学中を含む）、修士課程・専門職修士課程院生8人の構成となっています。

本年度は7月6日（土）に同窓会を予定しており、大嶋 巖先生が日本社会事業大学の学長になられたことを皆さんとご一緒にお祝いしたいと考えています。お気持ちを同じにさせていただける皆様のおでかけを心からお待ちしております。

平成 24 年度学位論文

☆卒業論文

- 高岡由梨子 Fruit and vegetable consumption in adolescence and health in early-adulthood
- 徳重 誠 自傷行為はアディクションなのか.
- 羽田野修平 過労死・過労自殺訴訟は株価を下げるか?.
- 水上愛子 アルコール依存症を有する女性が自助グループの効果をいかに感じているかの文献検討.
- 前野洋平 仕事への態度とリカバリー経験との関連についての検討.

☆修士論文

下田陽樹
被災地における K6 尺度の心理測定的特性および属性別得点分布の特徴：被災地データおよび一般国民データの二次解析による比較.

時田征人
気分障害により休職中の労働者における電子メールセルフ・モニタリング支援の効果：予備的研究.

後藤恭平
日本の養護教諭における仕事から家庭への葛藤と就業状況との関連.

山岸みずほ
事業場におけるメンタルヘルス対策の実施状況 一事業場規模および産業保健スタッフの有無との関連性の検討一.

☆博士論文

今村幸太郎
Effects of an internet-based cognitive behavioral therapy (iCBT) intervention for improving depression among workers: A randomized controlled trial.
(労働者に対するインターネット認知行動療法 (iCBT) による抑うつ症状改善効果：無作為化比較試験)

梅田麻希
Marital violence and access to health care: How does socioeconomic status affect the association?
(配偶者間暴力と医療アクセス：社会経済的要因の交互作用に焦点を当てて)

津野香奈美
Supervisor Leadership Style and Workplace Bullying among Japanese Civil Servants: A Six-month Follow-up Study. (日本人公務員における上司のリーダーシップ形態と職場のいじめ・ハラスメントとの関連：6 ヶ月間の追跡調査)

ヨン・キム・フォン(ロザリン)
The Reliability and Validity of Three Internet Addiction Instrument in the Japanese Population.
(日本人集団における三つのインターネット依存尺度の信頼性と妥当性)

富永 眞由美
特別支援教育フリースクールにおける広汎性発達障害生徒の対人関係発達に関する研究.

新入生からのご挨拶

☆学部研究生



はじめまして。山下吏良と申します。4月から研究生として受け入れて頂きました。これまでの経歴は、民放報道記者→NHK キャスター→臨床心理士→海上自衛官→今年度から筑波大学医学医療系災害精神支援学講座助教及び、都内のカウンセリングルームで臨床心理士として勤務しております。これまで仕事で関わったのは、自殺予防、惨事ストレスケア、職場のメンタルヘルス、臓器移植ですが今後は、これらの経験を活かしてメンタルヘルスの研究や臨床に取り組むべく、当講座で勉強させて頂きたいと存じます。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

精神保健学分野 山下吏良



Colleagues of the Department of Mental Health,



It is my great honor and pleasure to have the opportunity to join the department. With an undergraduate education majoring in psychology and 30 year's experience as a cabin crew ,I have always been interested in the differences and similarities in human behaviors as well as mental reactions while traveling at high altitude across many time zones in totally enclosed space. In such a unique environment, the cabin crew has to carry out multiple tasks; safety and security duties, responses to emergency and medical incidents, and human-related services ,so called emotional labor. The physical and mental health of the cabin crew is important for them to carry out their duties, which is a key for flight safety. Stress from the pressure of work, increasing difficulties in the airline industry, personal and family circumstances, etc. may affect their performance.

The aim of my study is to measure the stress of Japanese cabin crew on international flights of longer than 7hours and extract stressors particularly relates to emotional labor and company culture. I am grateful to Professor Kawakami and his study team for approving my study.



I hope the findings of this study would shed some light on the mental health of airline workers and suggest strategies for improvement.
Masumi Sakaguchi-Tanaka

☆大学院修士課程



今春、SPH に入学しました金原明子と申します。大学では心理学を学び、卒業後は病院の精神科ケースワーカーとして働いてきました。臨床経験や手さぐりの教育・啓発活動から、一次～二次予防について体系的に勉強し、広く根深い問題に対して専門家として取り組みたいと考えるようになりました。今から、素晴らしい先生方・先輩方から学べることを楽しみにしております。初心を忘れずに頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

公共健康医学専攻 精神保健学分野 金原明子

SPH1 年生の佐藤融司と申します。卒業生の岡本真澄さんにご縁があり、こちらの研究室に入ろうと思って進学してきました。出身は東大の教育学部の教育心理学コースです。現在の関心領域としては「生きづらさ」の問題や、ジェンダー・セクシュアリティと絡んだ領域、特にセクシュアル・マイノリティ(≡ LGBT)のメンタルヘルスといったところになります。現在は TOMH の研究会の方に出席させていただいております。飲み会は大好きですので何かありましたら是非誘ってくださいませ。これからどうぞよろしくお願ひ致します。



公共健康医学専攻 精神保健学分野 佐藤融司



今春、精神看護学分野修士課程に入学いたしました、栗林一人と申します。3 月まで千葉県精神病院で看護師として働いていました。依存症患者さんや、依存症の親の下で育った子供の精神健康に興味があります。臨床で患者さんにケア・接することも好きで、今は都内の病院にて非常勤で働いています。恵まれた環境、素晴らしい先生や先輩、同期の方々に感謝し、日々研究に取り組んでいきます。どうぞ宜しくお願ひ致します。

健康科学・看護学専攻 精神看護学分野 栗林一人



この春、九州大学を卒業し、精神看護学分野修士課程に入学してきました、菅真理子と申します。

昨年までは関東に来たこともなかったわたしですが、今では先生方、先輩方、教室の皆様を支えられながら充実した日々を過ごしております。関心のあるところとしては、精神疾患を抱える人の社会復帰やリカバリーなのですが、この恵まれた環境や資源を活かし、視野を広く持ち様々なことを学んでいきたいと思っております。どうぞ宜しくお願ひ致します。健康科学・看護学専攻 精神看護学分野 菅 真理子



☆大学院博士課程



初めまして、今年から健康科学・看護学専攻の精神保健学分野に入学いたしました宮本かりんと申します。修士では同じ3号館の5階にある国際保健学の教室で公衆衛生を勉強しておりましたが、自分が専門とする分野を作りたいと思い、博士課程は精神保健学に参りました。興味がある分野は途上国の精神保健分野・物質依存です。どうぞよろしくお願ひします。

精神保健学分野 宮本かりん



☆特任助教

この3月まで博士課程の学生として本教室に所属していました。4月からは、特任助教に衣替えをして、引き続き本教室のメンバーとして研究や教育に携わることになりました。

2008年に公共健康医学専攻を修了した時には、研究の道に進みたいのか、それ以外の現場で仕事がしたいのか、気持ちが定まっていませんでした。NGOでの活動に悩みながら固まった「研究者になりたい」という小さな決意を受け入れてくださった川上先生にとっても感謝しています。これからは、形の無い思いから研究テーマへと育ってきた研究課題（暴力の連鎖や社会階層とジェンダー）に、歩みを緩めず取り組んで行きたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。 精神保健学分野 特任助教 梅田 麻希

プロジェクト紹介

「第2回こころの健康についての疫学調査
(世界精神保健日本調査セカンド)」

平成14年度から18年度に実施した「第1回こころの健康についての疫学調査」から約10年が経過しました。この間、日本は長引く不況やソーシャルメディアの発達、東日本大震災など多くの変化や困難を経験しました。それにより、心の健康問題やその関連要因にも変化が生じていると考えられます。そこで、本教室では平成25年度から28年度にかけて「第2回こころの健康についての疫学調査」(主任研究者・川上憲人教授)を実施することになりました。第2回調査では、全国から調査対象地域を無作為に150市町村抽出し、約3000名の地域住民の方を対象にインタビュー調査を行います。そのため心の健康問題の移り変わりを知るだけでなく、地域のごとの心の健康状態やその関連要因についても検討をすることができます。調査の結果は本教室のホームページでも公表致しますので、ぜひご覧ください。

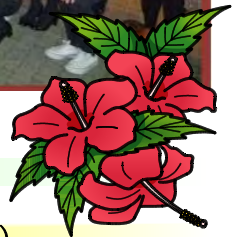
特任助教 梅田麻希



平成 24 年度 歓送会



イタリアンレストラン
ビアンタ (本郷二丁目)



東京大学精神衛生・看護学教室同窓会第35回総会について (お知らせ)

講演会 日時：平成25年7月6日(土) 16:30-18:30 会場：東京大学山上会館 司会：川上憲人教授

1. 16:30-17:20 2階小会議室

時田征人氏 (精神保健学分野博士課程1年)

「気分障害により休職中の労働者における電子メールセルフ・モニタリング支援の効果：予備的研究。」

梅田麻希氏 (精神保健学分野特任助教)

「配偶者間暴力と医療利用：社会経済的要因の交互作用に焦点を当てて」

2. 17:30-18:30 2階大会議室

大島巖先生日本社会事業大学学長就任記念講演

総会・懇親会 日時：平成25年7月6日(土) 19:00-21:00

(祝賀会) 会場：東京大学山上会館一階懇話ホール

会費：5,000円

懇親会の申し込みは同封
返信用はがきにて**6月18日**
(火)までに投函をお願いします。



同封 ①同窓会総会、講演会の出欠の返信用葉書 ②同窓会費納入のための振替用紙
③名簿作成のための原稿(変更、修正のある方は8月10日までにご返送ください。)

同窓会費納入のお願い

規約に基づきまして、会費納入をお願いします。

同窓会費 年2,000円

ゆうちょ銀行振替口座

口座名称 東京大学精神衛生学教室同窓会

口座番号 00190-9-318489

(同封の振替用紙をご利用下さい)

他金融機関から振込用口座番号は

〇一九店(019) 当座 0318489 になります。



平成 25 年 5 月 21 日

精神保健学・精神看護学分野 News Letter

のお問い合わせは下記までお願いします。

東京大学大学院医学系研究科

精神保健学分野・精神看護学分野 担当 中嶋美喜子

教室 HP <http://plaza.umin.ac.jp/heart/>

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

TEL 03-5841-3584 FAX 03-5841-3392

電子メール miki-n@m.u-tokyo.ac.jp(中嶋)

☆同窓会ではメールリングリストを開設しております。ご希望の方は中嶋までメールで連絡をお願いします。